

生命の表現力

山下清と その仲間たちの作品展

踏むな
育てよ
水そそげ
——
八幡学園標語



野田重博《花と虫のいろいろ》クレパス / 1938年

クレパス画の異才 石川謙二

原始芸術の風格 沼祐一

幼くして絵画的天分の持ち主 野田重博

2017年

9月2日[土] — 10月1日[日]

開館時間 — 9:30-17:00 (入館は16:30まで)

休館日 — 毎週月曜日(9月18日は開館)、9月19日(火)

観覧料 — 一般700円(560円)、65歳以上・大学生・高校生500円(400円)、中学生以下無料

* ()内は20名以上の団体料金 * 障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

* 9月18日(月・祝) 敬老の日は65歳以上無料

主催 — 川崎市市民ミュージアム / 「八幡学園」山下清展事業委員会

川崎市市民ミュージアム

企画展示室 1



山下清 肖像 (撮影: 廣澤孝志)



今年、創立89年を迎える知的発達障害児入園施設「八幡学園」(1928年開園・千葉県市川市)は、「踏むな 育てよ 水そそげ」の指導理念のもと、心の触れ合いを通して一人ひとりの特性を見出してきました。山下清は、1934年(12歳)八幡学園に入園し、そこで貼絵に出会い、才能を開花させました。山下清をはじめ、八幡学園の仲間たちである石川謙二・沼祐一・野田重博は、それぞれに障害を抱えながらも「美」に対するたぐい稀なる「天性」を感じさせる作品を多数残しています。

今回の作品展では、4人の作品100余点と合わせて山下清の放浪日記、習字、学園での思い出の写真なども公開します。数々の作品から、その表現のうちに込められた、生命の表現力の煌めきをぜひ感じていただければ幸いです。

山下清 / 1922-1971 (享年49)

東京浅草に生まれる。1934年(12歳)「八幡学園」に入園。ここで貼絵に出会い、園児にやさしい環境のなかで制作に熱中する。6年半後(1940年)八幡学園を出奔。以後15年半に及ぶ放浪を続ける。1956年(34歳)放浪生活に終止符。学園生活の思い出や、放浪から学園に戻って思い出して描いた作品の展覧会を東京で開催。1971年、脳溢血が原因で49歳の生涯を終える。



貼絵制作にはげむ山下清(12歳) / 1934年

著作権の関係により
WEB版には作品画像を
掲載しておりません。

著作権の関係により
WEB版には作品画像を
掲載しておりません。

八幡学園でともに育った仲間たち 「」内は早稲田大学心理学教室教授 戸川行男(1903-1992)「八幡学園の子供たちの作品を見て」より引用

クレパス画の異才

石川謙二 / 1926-1952 (享年26)

11歳のときに入園。右目はほとんど見え、18歳頃には左目も視力減退。虚弱体質で、入園までは浮浪生活を送っていた。13歳の頃から、大判の画用紙に猛然とクレパス画を描き始め、かつて自分が住んでいた浅草の情景を再現していった。「浅草公園の子であり、街頭の浮浪児であった謙二君の絵は、常に人物が描き込まれる、人臭い表現です。」



《おわかれ》クレパス / 1939年

原始芸術の風格

沼祐一 / 1925-1943 (享年18)

10歳のときに他の施設より入園。衣服を裂いたり、時には爆発的に憤怒したりといった野性ぶりがあった。入園当時、誰も絵を描けるとは想像しなかったが、クレヨンや色紙をちぎって絵を描くようになる。「祐一君の絵には原始芸術の風格があり、ある意味では清君以上の、その何倍かも不可思議であり、奇跡的でもあります。」



《どうぶつ》貼絵 / 1941年

幼くして絵画的天分の持ち主

野田重博 / 1925-1945 (享年20)

11歳のときに救護法該当児として入園。わずかに氏名を記入する程度で、ほとんど読み書きができなかった。重い障害を受けていながら、競争心が強く、クレヨン・クレパス・色紙と何でも使って絵を描いた。「彼の多くの絵は健康的な印象を与えます。知能の障害は一層激しいにもかかわらず、作品の多くに写真性を感じることは、今後の作品に大きな期待を寄せてもよいと思います。」



《潮干狩り》クレパス / 1938年

【関連企画】

●記念講演会

「なぜ? どうして? — 真実を求めた山下清」

山下清作品展を通して9年間行動を共にした松岡氏しか知らない山下清の素顔に迫ります。

講師: 松岡一衛 (社会福祉法人 春濤会 八幡学園 理事)

9月17日(日) 14:00—15:30 (13:30開場)

1階映像ホール / 定員: 270名 (申込不要・先着順) / 無料 ※観覧券(半券可)が必要

●貼絵ワークショップ

「あったらいいな、こんなチョウチョ」

講師: 松田拓実 (障害者造形教育研究指導員・八幡学園造形教室講師)

9月3日(日) 14:00—16:00 (13:50開場)

3階体験学習室 / 対象: 小学生以上 / 定員: 18名 (事前申込・先着順) / 参加費: 200円

[申込方法] 電話 044-754-4500 7月26日より受付開始

●学芸員による展示解説

9月23日(土・祝) 14:00より / 無料 ※当日の観覧券が必要

【交通案内】

●武蔵小杉駅(JR南武線・横須賀線・湘南新宿ライン、東急東横線・目黒線)からバスで約10分

◎北口1番乗り場から川崎市バス / [杉40] 市民ミュージアム行 終点下車 / [杉40] 中原駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ / [溝05] 溝口駅前「市民ミュージアム前」下車すぐ

◎南口「東横線小杉駅」バス停から東急バス / [川33] 市民ミュージアム行 終点下車

◎横須賀線口2番乗り場から東急バス ※土曜・休日のみ [杉05] 市民ミュージアム行 終点下車

●溝の口駅(JR南武線、東急田園都市線・大井町線)からバスで約20分

◎北口3番乗り場から川崎市バス [溝05] 小杉駅行「市民ミュージアム前」下車すぐ

◎北口5番乗り場から東急バス [溝02] 小杉駅行「市営等々力グランド入口」下車徒歩8分

●川崎駅(JR)からバスで約40分

◎西口北バスターミナル82番乗り場から東急バス [川33] 市民ミュージアム行 終点下車

※当館に専用駐車場はありません。お車で越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。駐車料金ご利用の割引等はありません。

●連携特集上映〈アートへの情熱〉

連携上映として、さまざまなアーティストたちの情熱を描いた映画を特集します。

放浪するアーティストたちを描いた『放浪の画家ピロスマニ』(1969)、『FOUJITA』(2015)、『百日紅—Miss Hokusai』(2015)、アートに情熱を注ぐ人生を描いたドラマ『アキレスと亀』(2008)、障害者によるアート制作を取り上げたドキュメンタリー『まひるのほし』(1999)、『虹をかける子どもたち』(1980)、全6作品を上映します。

9月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、23日(土・祝)、24日(日)、30日(土)、10月1日(日) 各日11:30〜 / 14:00〜 (※各回入れ替え制、15分前に開場)

1階映像ホール / 定員270名 (申込不要・先着順)

当日券(1プログラムにつき): 一般600円、65歳以上・大学生・高校生500円、小中学生400円
※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者は無料。

※各作品の上映スケジュールは川崎市市民ミュージアムHPの上映案内をご覧ください。

【同時開催】

「ハイチアート展」9月2日(土)〜11月26日(日) 企画展示室2

観覧料: 一般300円(240円)、65歳以上・大学生・高校生200円(160円)、中学生以下無料

※「山下清とその仲間たちの作品展」の観覧券の半券のご提示で、100円割引となります。

川崎市市民ミュージアム
〒211-0052
神奈川県川崎市中原区等々力
1-2 (等々力緑地内)
TEL. 044-754-4500
FAX. 044-754-4533
<http://www.kawasaki-museum.jp/>

